



JAPAN AMERICA
SOCIETY OF IOWA

MUSUBIアイオワ継承日本語教室 学校案内

(アイオワ日米協会傘下 Language School 継承日本語教育部門)

2024年4月現在

目次

Index

- 本教室の理念と目的
- 理念や目的の背景
- 本教室の沿革

- 本教室の活動とその特徴
 1. 子どもを主体とする活動
 2. MUSUBIの保護者を対象とする活動
 3. (主に) 米国各地域拠点の小規模継承日本語グループを支える活動
- 本教室の活動課題

MUSUBI
Websiteはこちら



母体 JASI
Websiteはこちら



MUSUBIの理念と目的

Our Mission

子どもたちを結ぶ

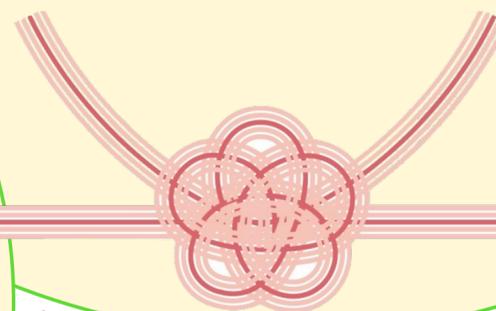
米国アイオワ州内のコミュニティを発信拠点に、日本とつながりを持ちながら海外で暮らす未就学期から学齢期の子どもたちと共に、日本語を通してたくさんのつながりをつくること。自信をもって社会に羽ばたくための日本語を通じた学びの支援を行うこと。

保護者を結ぶ

米国アイオワ州内のコミュニティを発信拠点に、週内外の保護者たちが結びつき、皆で育児の日本語部分を支えるコミュニティとして機能すること

地域拠点の教室関係者を結ぶ

我々のような継承日本語教室、グループの孤立を防ぎ、それぞれのグループの持続可能な運営をともに支えるための支援活動を行うこと



理念や目的の背景

Background of our mission

- 米国アイオワ州には、補習校が一校存在するものの、日本につながる子どもたちが散住しており対面による継承日本語教育支援が十分であるとは言えない。また、子どものみならず運営活動の担い手である教師、運営陣といった人的資源の確保も非常に困難である。このような地域はアイオワ州だけに限らず、世界の各地域に存在している。また、州内外を問わず、集団学習を行う上でしょうがいや困難のある児童生徒の存在や経済的事情、日本語学習の目的等、子ども自身や保護者の背景も多様である。
- 上記のような世界の継承日本語教育の地域事情を鑑み、州内外で継承語としての日本語教育を求める子どもたち・保護者を可能な限り支えるコミュニティづくりとその持続の必要性を感じている。
- 世界の各地域で尽力する運営者・教育関係者とつながることで、コミュニティを支える側が支え合い、それぞれの地域で継承日本語教育の裾野を広げていくことの重要性を感じている。

MUSUBIの沿革

Our History

- 2021年8月 周辺地域の保護者が集まり、日本語での学習活動を目的とした教室を仮運営（地元図書館にて運営）
- 2021年9月 毎週土曜日午前中に定期的な集まりとして本格活動開始（「デモインキッズ日本語クラブ」）
- 2022年9月 3歳児未満のグループ活動開始
- 2022年10月 年少ひよこ・年中・小学部に分かれての活動開始
- 2023年3月 NPOアイオワ日米協会（JASI）を母体とする傘下組織委員会Language School内の継承日本語教室として運営開始（「アイオワ継承日本語教室」）
- 2023年4月 非対面での活動を開始（対面・非対面両方のグループ活動開始）
- 2024年1月 非対面組拡大のためのパイロットクラス開始
- 2024年3月 MUSUBIーアイオワ継承日本語教室ーに改称（以下略称、MUSUBI あるいは Musubi とする）
- 2024年4月 非対面活動の受け入れ幅を州外にも拡大

MUSUBIの活動の三本柱

Our Activities

子どもを主体とする活動

- ・日本語を通じた定期的な学びの活動
- ・グループ内交流行事
- ・グループ全体での学びの活動
- ・他グループとの合同学びの活動

保護者との活動

- ・ついたちふつかのみんなの会（保護者の集い）
- ・子どもといっしょの学びの活動
- ・ゆるーくひよこ組未就学児の保護者の集い

地域拠点の継承日本語教室グループを支える活動

- ・運営者同士の勉強会の実施
- ・ネットワーク構築

子どもを主体とする活動

Our Activities with Children

1. 概要

頻度: 週1-2回

(心身の発達段階や時差、学習目標に合わせて小規模クラスを構成。週1回の定期的な活動を行う)

場所: 対面(週1回)、非対面(Zoomによる)

2. 教育的アプローチ

文部科学省検定済教科書の諸科目を共通土台としながら、内容言語統合型(CLIL)に近いアプローチを採っている。また、学習者も教師役もともに学び手として活動をする場づくりを心がけている。(役割の分担、教師は種まき)

3. その他

合同イベントの実施(対面組の日米協会イベントへの参加、オンラインライブでの他教室・団体との合同学習活動、ライブではないオンラインツールを活用した他教室・団体との合同学習活動)

保護者との活動

Our Activities with Guardians

1. ついたちふつかのみんなの会

頻度: 月2回 (基本的には毎月初めの週末とその翌週の平日で、保護者の都合の良い時間に分かれて実施)

場所: 対面非対面組共通 (Zoomによる)

内容: 子育て、保護者自身のキャリア、たわいのない話等、さまざまなテーマ設定で気楽に話す場を設けることで、保護者の育児不安解消やグループ内の他の子どもに対する理解等を促し、みんなで支え合える情緒醸成を目指す。

2. ゆるーくひよこ組

MUSUBIの活動に直接関わっていない、主に未就学期の保護者とその子どもたちを集め、幼少期に家庭内で言語方針について話し合うことの価値を知ってもらうことや、海外での育児不安等の解消につながるための子ども保護者集いの場を設けている。

3. その他

対談会の実施 (勉強会の際に、児童生徒の保護者にも声をかけ、運営活動についての理解を促したり、一緒に考えていただくことを目指す。)、親子自由参加の学びのイベント実施等

地域拠点の継承日本語教室グループを支える活動

Our Activities with Keishougo-groups

1. 勉強会の実施

頻度: 月1回(基本的には毎月中旬以降)

場所: 非対面 (Zoomによる)

内容: 勉強会メーリングリストに入っている皆さんと共に、その月の参加者同士の振り返りや活動研究等を行う

2. 勉強会ネットワークの構築

目的: 勉強会参加者(主に米国内の各地域を拠点とし、MUSUBIの活動と似たような趣旨・目的で子どもたちのための、あるいは保護者のための活動を行っている教室、グループ)を結びつけ、情報交換の場、学びの場の充実を図ること。それぞれの活動グループの孤立を避け、持続可能な運営を支援すること。

内容: 勉強会を通してつながった参加者同士をメーリングリストでつなぎ、情報や意見交換を行う。

MUSUBIの運営とその特徴

Our Management Policy

1. 小グループでの複数教室による対面・ハイブリッド・オンライン活動

州内外の子どもたちが、できるだけ似たような学習目的を持つ子どもたちを、時差や児童生徒の性格等を考慮し小グループを複数形成。普段の活動においては、これらの小グループに分かれた学びの活動を実践している。

2. 奨学金制度

経済的事情で補習授業校等に通えない子どもたちに対しては、相談の機会を設け、経済的事情により日本語教育の機会を奪われることのないよう努めている。

3. 保護者による運営

MUSUBI内の保護者、MUSUBIの活動趣旨に賛同する人々と関わり、教師役、運営会計等の役割を分担して活動を支えている。

MUSUBIの課題

Our Challenges

- 【対面組】会える家庭数が非常に少ないため、アイオワ州内の継承日本語教育の実態を早期に調査する必要がある。
- 運営面においては、州内外の保護者に教師役を引き受けていただくことで人的資源の問題が大幅に軽減したが、それらの保護者を支えるための教育支援活動が必要である。
- 対面とオンラインのそれぞれの良さを活かした活動を心がけているものの、オンラインでは家庭ごとに使用可能なデバイスやプログラムの限界もあり、特に中学年期以降の子ども主体の活動においては、みんなが安心して使いやすいオンラインツールの提供提案を模索する必要がある。
- 小規模教室では実現しにくい、専門家を招いた会、活動等を、他地域の教室や団体と協力しあうことで実現し、子どもたち・保護者たちにとってより豊かな学びの機会の提供を目指したい。